

学校法人相愛学園

理事長 相 田 芳 久 殿

令和6年度

学校評価総括報告

報告者 焼津豊田幼稚園

園長 佐野正子



理事長
決 済



令和6年度 学校法人相愛学園焼津豊田幼稚園 学校評価の総括

園長 佐野正子

本年は、学校評価に関する事業を進めるにあたり、以下のような経過で作業を進めてまいりました。

1. 各学期における教育活動、学級・学年運営の振り返り(1～3学期)
2. 時期に応じた父母アンケートの読み取り、くみ上げ(1～3学期)
3. 職員各自による自己点検・評価の実施(R7.2.月上旬)
4. 保護者アンケートの実施(R7.2月上旬)
5. 各自己評価ならびに父母アンケートの結果を踏まえた施設管理者の自己点検・評価 (R7.2.14 理事長の確認決済)
6. 学校関係者評価委員会の実施(R7.2.28)
7. 学校関係者評価委員会からの報告(R7.3.14)
8. 学校評価の総括を理事長に提出

自己点検・評価の内容については2月14日に報告したとおりですが、その後に実施された学校関係者評価委員会からもプラス評価とともに、いくつかの改善点も指摘されました。来期への改善課題については以下のとおりです。

1. 『主体的な子どもの姿を目指して』というテーマを心にとめ、様々な活動や遊び・生活の中から主体的な子どもの姿を見つけ育てていく。
2. 教職員が互いに教え合い学び合う時間を大切にする中で、対話的な話し合いを重ね保育の向上を図っていくと共に互いを尊重し合い自己発揮することでチーム力を高めていく。

これらの事項については、令和7年度の課題として真摯に捉え、十分な対応を検討していきたいと考えます。

なお、安全管理、防災・防犯への対処については一定の評価をいただきましたが、大切な園児の命をお預かりする施設として、引き続きさらに万全を期して取り組んでまいりたいと思います。

以上、令和6年度の本園学校評価の総括として報告いたします。

令和6年度の教育活動等に対する学校評価書

令和7年3月18日

学校法人相愛学園 焼津豊田幼稚園長 佐野正子



〃 学校関係者評価委員長 久保山なぎさ



- 1 幼稚園の教育理念** 建学の精神 『あかるく こころゆたかに』
 教育目標 1 じょうぶなからだに
 2 いのちをたいせつに（思いやりのある子に）
 3 やる気のある子に
 4 よく考える子に

2 本年度の重点目標

- 『主体的な子どもの姿を目指して』という研修テーマに沿って、様々な活動や遊び・生活の中から、主体的な子どもの姿を見つけ育てていく。
- 園の良さを更に伸ばしたり、課題解決するための方策を見つけていく。

3 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果

評価項目	自己評価		学校関係者評価	
	評点	幼稚園としての視点	評点	意見・評価
教育活動や園行事の実施にあたり、内容や実施方法が子どもにとって充実したものとなっているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・園行事については、子ども達の育ちの現状に合わせて内容の精選を図った。日々の保育の延長線上に園行事があることを心にとめ、じっくり取り組めるようにゆとりのある計画を心掛けた。それらを経験することで、子ども達が自信を持てるよう適切に関わる努力をした。 ・他学年との交流を深める“縦割り活動”を継続的に取り入れた。生活の中で接し方や言葉かけ等、子ども達が自然に学んでいった。自由な遊びの時間でも、異年齢で遊ぶ姿もより多くみられるようになったことは成果となった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・評価委員会当日、全クラスの保育の様子を参観させていただきました。どの保育室も温かい雰囲気での装飾で飾られ、その中で子ども達が幼稚園生活を楽しんでいる様子を感じました。また、先生方の一人ひとりへの声かけや見守る姿勢が、子ども達の思いを大切にしている様子を感じ取ることができました。縦割り活動を含め、様々な保育内容を展開していましたが、子ども達が年代ごと健やかに成長している姿が見られました。特に異年齢の関わりは、家庭ではできない学びとなるので継続して行ってほしいと思います。子ども達にとって有意義な園生活が送れるよう、より一層の努力を期待します。

<p>子ども一人一人の内面を育むよう適切な指導援助が考えられているか。</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導・援助が必要な子どもについては引き続き個別指導計画を立案しサポートをしていった。いろいろな表れを持つ子どもの割合が少しずつ増えてきている為、園と保護者が同じ方向に向いていけるよう配慮した。 ・教職員の輪（和）の中で一人ひとりを育てていけるよう協力体制を整えていった。 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な環境の現代社会の中で育つ子ども達なので、様々な表れがあり対応が難しいこともあると思います。まずは子どもと先生、教職員間、保護者との連携等…信頼関係を築いていくことを大切にする事から指導援助が始まっていくのだと思います。しっかりとした考えを持ち、今後も子どもに寄り添った保育が展開できるよう協力体制を整えていくことを望みます。
<p>園内の施設設備環境等幼児が安心して生活できる施設設備環境となっているだろうか。</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭遊具等、日常的な目視や点検、職員による月1回の定期点検等行いながら、安全管理に努めている。遊具の点検管理の他、事故を未然に防げるような子ども達への安全に対する意識を育てていきたい。 ・ヒヤリハットの記録を提出してもらい、取り纏め報告する取り組みを始めた。しかし伝達はできたが、怪我の起こりやすいやすい場所等のまとめや地図化できなかった。次年度は保護者にも伝えていけるよう考えていきたい。 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園内においてはセキュリティ、安全指導・管理、遊具点検等を通して、子ども達の安全な生活を保障するものとなっていることは、保護者にとっても安心材料の一つとなります。施設設備での経年劣化は仕方がないことではありますが、子ども達に怪我の無いよう、引き続き計画的に整備を進めていってください。 ・保育室の装飾などは温かい雰囲気の良いのですが物が多く雑然としているクラスもありました。子ども達が一日過ごす保育室内の環境も互いに見直すことも必要かと感じました。

○自己評価、学校関係者評価を経て、令和7年度への課題として以下の点を挙げました。

1. 『主体的は子どもの姿を目指して』を心にとめ、様々な活動や遊び・生活の中から主体的な子どもの姿を見つけ育てていく。
2. 学び合う時間を大切にする中で、対話的な話し合いを重ね保育の質の向上を図っていくとともに、互いを尊重し合い自己発揮することでチーム力を高めていく。

以上